

第12回大会 大会総括

世田谷区福祉人材育成・研修センター長 瓜生 律子

せたがや福祉区民学会第12回大会にご参加いただきありがとうございます。

この学会は、世田谷区の福祉施設や事業所で働き、学び、研究する者と区民、行政で構成され、会員が一体となって相互に対等な立場で、福祉実践活動の工夫や課題についての研究の成果を発表し、学びあい、区民福祉の向上を目指して、平成21年12月に設立されました。平成26年2月の第5回大会は当日の大雪で中止となりましたが、11回大会までに565事例、4,559人の方に参加いただき、学会の活動は連綿と受け継がれ発展してきました。

令和2年4月7日、新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言が出され、研修や様々なイベント等も中止や延期となりました。

5月25日に緊急事態宣言は解除されましたが、区内大学の入構制限は続き、また、大会開催予定の12月の状況が、不透明なこともあり、事務局である福祉人材育成・研修センターでは、第12回大会を必ず「開催する」ため、Webによる新しい開催方式の検討を始めました。Web開催で「事例」は集まるのか、「交流」はできるのか、「運営費」など様々な課題はありましたが、せたがや福祉区民学会理事会に（7月3日付書面開催）「大会のWeb開催」について諮り、同意を得て開催準備を進めてまいりました。

「区のお知らせ」（8月1日号）やポスター・チラシで「発表事例」を募集したところ、例年と遜色なく48事例の申し込みをいただきました。発表者には「要旨」に加え「動画」を提出いただき、助言者には「要旨」「動画」を見て、コメントをいただきました。事務局も慣れない中でしたが、従来の「要旨集」と「報告集」を一本化し「発表事例集」を作成しました。今後、この「発表事例集」とホームページとあわせ、皆様のご意見・ご感想をお寄せいただき、交流を図ってまいります。

基調講演は本学会理事の大熊由紀子氏から、「未来につなぐ せたがや福祉のきずな～前例を超える・前例を創る～」と題して、10月に施行された「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」策定の経過を含め、「認知症は“予防”するのではなく“備え”をする」「認知症になっても、“ケア”と“環境”により、生き生きと生活ができる。笑顔でいられる。安心して認知症になれる地域をつくる必要がある」「ノーマライゼーションの考え方」「世田谷の地域包括ケアの実際」まで幅広くご講演をいただきました。

せたがや福祉区民学会
学びあい、広げよう せたがや福祉の輪
「未来につなぐ せたがや福祉のきずな」

第12回大会 発表事例募集
申込期間 令和2年8月3日(月)～令和2年8月31日(月)
※当日受付可

募集テーマ
1 子ども・若者が輝くまち 世田谷
2 地域をつなぐネットワーク
3 多様性を認めあう共生社会づくり
4 ケアにおける協働・連携
5 福祉の能力向上・発信
6 一人ひとりに向きあった実践
7 新しい生活様式における取組み

応募要項
①募集内容：世田谷区内で行う福祉活動に関する研究、実践、調査等に関すること
②発表方法：発表事例集、動画（動画は発表の趣意を記載し、見守りやすいもの）
③応募資格：せたがや福祉区民学会会員（※公募可）；人数についてはお問い合わせください
④申込先：せたがや福祉区民学会事務局
お問い合わせ先：福祉人材育成・研修センター（〒201-8501 世田谷区北町1-1-1）

第12回大会 大会の開催案内
※第12回大会開催にコロナウイルス感染拡大を踏まえ、従来のような大会での開催方法を認め、Web開催とさせていただきます。

開催期間 令和3年1月中旬～令和3年2月中旬

基調講演 大熊由紀子氏（国語専攻大学大学院教授・せたがや福祉区民学会理事）
「未来につなぐ せたがや福祉のきずな」

参加方法 発表事例集閲覧、動画視聴、アンケート提出
<https://www.setagaya-jinzai.jp/society>

事務局 世田谷区福祉人材育成・研修センター
TEL: 03-6377-4280
FAX: 03-6377-4281
<https://www.setagaya-jinzai.jp>

企画・共催・後援
・せたがや福祉区民学会
・社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
・世田谷区
・社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会

発表事例は世相を反映して、新型コロナウイルス感染症に関係した取組みが多くありました。地域の中で一番大切な、人と人とのふれあいが制約される「新しい生活様式」の中、Zoom を活用した交流会などオンラインでの新しいつながりなど、地域で安心して暮らし続けられるよう新たな発想による取組みなどご示唆をいただきました。工夫して継続するからこそ新しいことが生まれる…ぜひ、参考にしたいです。

また、地域の中での人と人とのつながり、連携の中から情報や課題が共有され連帯感も生まれ、地域を包括的にとらえることができる、地域共生社会に向けた取組みなど「地域」に関する発表も多くありました。さらに、チームケアのあり方や ICT、介護ロボットなどの取組みについての発表もありました。地域社会が変貌する中、「子ども・若者が輝くまちの創造」などまちづくりの大切な視点と子どもに関連する発表も増えてきています。

助言者からは、「要旨に加え動画作成はご苦労があったと思います」「動画はわかりやすく良かった」「発表の質は高く、日頃の実践活動や取組みがよくわかった」「発表のための研究でなく、生きた研究発表」「“できない”ではなく、“どうすればできるか”を検討し実践している」と高く評価をいただきました。



大会では、様々な視点から、日ごろの実践活動が発表され、それがまた、日ごろの仕事や活動の振り返りにつながり、世田谷の福祉の向上につながっています。発表者から「学会での発表は、仕事の目標を掲げ、取り組み状況や課題を整理し発表するので、日常の仕事にスポットが当てられ、働く人たちの“やりがい”や“スキルアップ”につながっている」と、学会がもたらす効果についてコメントをいただいています。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は私たちにとって大きな試練ですが、この困難な状況を乗り越えていくために、今、自分たちにできることは何なのか。発表を通し、今一度考えてみたいと思います。

今回のテーマ「未来につなぐ せたがや福祉のきずな」にありますように、今を生きる私たち世代の先には、子どもたち・孫たちの人生がつながっています。未来の世代も安心して幸せに暮らしていけるよう、その基盤を整えるのは、今を生きる私たちの責務になります。

来年はぜひ、対面で開催し、本学会がさらに発展していくことを祈念しまして、第12回大会発表事例の総括とさせていただきます。皆様のご意見・ご感想で今後、交流を深めていきたいと思っております。皆様、奮ってご参加ください。お待ちしております。

最後になりましたが、今回、大変な状況の中、発表をいただいた皆様、お忙しい中、貴重なコメントをくださった助言者の皆様、多くの協賛企業の皆様。皆様のご協力により、大会が開催できましたことに、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。